



十小だより

令和 6 年 5 月 3 1 日
第 3 号
府中市立府中第十小学校

備えあれば憂いなし ～避難所開設訓練を始めます～

梅雨の季節となりました。先日は、傘も使えないような強風もありましたが、子どもたちの登下校時刻ではなかったことが幸いでした。5月の一斉下校訓練は、円滑に行えましたが、今年度も台風などに備えていきたいと思えます。

さて私は、昨年度末の3月、JR 東日本が「きゅんパス」という1日1万円のチケットを発売していましたので、府中第十小学校で、新たに防災の取組をスタートさせるにあたり、防災への危機意識を高めるために、日帰り、東日本大震災の震災遺構を訪ねてきました。これまで、東日本大震災や熊本地震の時に、災害の半年後ぐらいに被災地を訪ね、被災者の話や避難所となった学校の話などを聞いてきていましたので、昨年度、着任して以来、「もし、大地震が起きたら、十小が避難所となる準備は整っているのか？不安を抱えて、十小の子どもたちが家族と一緒に体育館に避難してきた時に少しでも安心させられるように段取りはされているのか？」と心配になり、昨年度、スクールコミュニティ協議会においても、令和6年度から地域や保護者の方々と連携した防災の取組を行いたいと相談してきました。

数年後に目指すところは、災害時に十小に避難してきた時に、どのような資材が十小にあるのかを把握し、避難所開設の手順やルールを共有し、公の支援だけに頼るのではなく、共に助け合い、安全で健康的な避難を実現することについて、児童・保護者・地域の方が理解することです。

今年度は手始めに、11月の学校公開日で、4年生の総合的な学習の時間の公開を行い、そこで、避難所開設のための様々な資材等を確認することから始めてまいります。4年生の保護者に限らず、他学年の保護者や地域の方など多くの方に、少しでも見ていただけたらと思っています。

また、8月31日には、学校防災の日として、府中市立小・中学校で、一斉に引き渡し訓練を行います。この訓練では、スマート連絡帳や学校ホームページによって、引き渡しの連絡を行いますが、府中市立学校では、震度5弱以上の地震があった場合は、学校からの連絡の有無に関わらず、児童・生徒は引き渡しとなっています。

令和6年は、能登半島地震から始まりましたが、令和6年になってから、震度5弱以上の地震は、能登近隣で16回、それ以外の地域で6回も発生しています。

ちなみに、マグニチュード7以上の東京と日本各地の地震の歴史を見てみると、1703年12月元禄地震、1855年10月安政江戸地震、1923年9月関東大震災と、100年に一度の大地震に見舞われており、その前後には、日本各地で同様の大きな地震被害が発生しています。前回の関東大震災から100年、そして、日本の他の地方での地震の状況を踏まえると、待ったなしの大地震対策が必要です。

学校での避難訓練も、みんなが揃っている状況での集団の訓練はよくできていますので、全員の居場所や安否がわからない時の対応についての訓練も必要と考え、今年度内に、登下校中に地震が発生したと想定した避難訓練も行う予定です。ご家族でも、災害時の避難場所や登下校時の危険箇所を一緒に確認するなどの備えをお願いします。